

桜川市10年の軌跡

平成の大合併の中、岩瀬町・大和村・真壁町が、平成17年10月1日に合併し、人口4万9,896人の桜川市が誕生。本年10月1日、市制施行10周年を迎えました。

この間、公共施設やインフラ整備などの充実や真壁の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、総合的なまちづくりが進められてきました。

そこで、桜川市誕生後の10年間の軌跡を、写真とともに振り返ります。

岩瀬町・大和村・真壁町が合併し、桜川市誕生。大和庁舎前で開庁式が行われました。(平成17年)



4月12日	4月1日	平成20 (2008)年	12月12日	11月10日 ～13日	7月16日	平成19 (2007)年	10月15日	平成18 (2006)年	12月11日	10月30日	10月1日	平成17 (2005)年
北関東自動車道の桜川筑西IC(インターチェンジ)～笠間西IC開通	新たな交通サービス「桜川市デマンド型乗合タクシー」の運行開始		「市民憲章」と「市の花(ヤマユリ)・木(サクラ)・鳥(ウグイス)」が決定	ねんりんピック茨城2007開催。桜川市がソフトボール交流大会の会場に	芝生グラウンド完備の桜川市桜井農村公園がオープン		震度6弱の直下型地震を想定した桜川市総合防災訓練開催		桜川市合併記念式典開催	桜川市初代市長に中田裕氏就任	岩瀬町・大和村・真壁町が合併し、桜川市誕生。市の市章も制定	

市章の3つの桜の花びらは、3町村の対等合併を表し、中央のダークブルーのフォルムは筑波山。その下のライトブルーは、桜川。それぞれ、市のシンボルである桜・山・川を表現しています。(平成17年)



「市の花(ヤマユリ)・木(サクラ)・鳥(ウグイス)」が決定(平成19年)